斜里町地域公共交通計画（案）に関する意見公募の結果について

1　意見公募手続（パブリックコメント）の実施状況

（1）募集期間　　令和8年1月19日（月）　～　2月9日（水）

（2）意見公募の結果

意見の応募者数　　2件（2個人）

うち、有効者数　　2件（2個人）

（3）提出方法の内訳

	持　参	郵　送	FAX	電子メール
件数（有効者）	1	0	0	1

（4）意見数　6件

2　意見の概要と町の考え方と対応

寄せられた意見の概要
①　計画案 33 ページの表（4-5-2）において、高齢者運転免許自主返納支援事業の令和 6 年度実績額が 4,400 千円とあり、前年度の 1,100 千円から大幅に増加している。申請 1 回あたり 1,100 円以内の助成という内容に対し、この金額設定は正しいか。
②　中斜里シャトランでは、ひきこもりがちな方の社会参加や就労体験の機会をつくっているが、公共交通の時刻が合わないために移動支援を行っている現状がある。こうした方の移動手段があることで、多様な背景を持つ人が社会とつながるきっかけを得られるため、市街地だけでなく交通空白地帯である郡部における移動支援の充実を望む。
③　エアポートライナーも既存の路線バスと同様に「路線バス停留所への停車」および「路線バス運賃（回数券利用含む）での乗車」ができるよう調整してほしい。
④　9:30 ウトロ発のライナーは 10:26 に斜里 BT に着くが、「しゃりぐる」は 10:25 に発車しており、接続できない（路線バスは接続可能）。これにより観光客の博物館アクセスや買い物利用が不便になっている。「しゃりぐる」の発車時刻を遅らせるなど、エアポートライナーからの乗り継ぎができるようダイヤを調整してほしい。
⑤　ウトロに宿泊し、日帰りで羅臼のホエールウォッチングを楽しめるよう羅臼線の運行時刻を工夫してほしい。羅臼側の宿泊施設不足を補い、両地区での滞在時間を延ばす効果がある。町民にとっても隣町の観光資源を利用しやすくなる。
⑥　「しゃりぐる」は要件と時刻表が合わず利用を諦めることが多い。網走バスの「どこバス」のような、利用者が時間を指定でき、予約方法も多様（電話・LINE 等）なデマンド交通を導入してほしい。

町の考え方と対応
①　当該事業の数値に誤りがございましたので、以下のとおり修正いたします。 修正箇所1：P31　表 4-5-1「本町が支援する移動に係る支援サービス」内 高齢者運転免許証自主返納支援事業 （修正前）申請 1 回につき 1,100 円以内→　（修正後）申請 1 回につき 1,150 円以内

修正箇所2：P33 表 4-5-2「本町で実施している交通支援策と費用」内 令和 5 年度実績 （修正前）1,100 千円 → （修正後）2 千円 令和 6 年度実績 （修正前）4,400 千円 → （修正後）5 千円 上記修正に伴い、利用者向け支出合計、全体合計額、前年度比の割合についても連動して修正いたします。
② 市街地だけでなく、交通空白地域を含む郡部での移動手段の確保は重要な課題であり、多様な背景を持つ方々の社会との接点を維持するという視点も含め、既存資源であるスクールバスの有効活用や、計画案で掲げる自家用有償旅客運送（公共ライドシェア）等の新たな仕組みの検討過程における参考とさせていただきます。
③ 知床エアポートライナーは、女満別空港とウトロ地区を直結する二次交通としての利便性および速達性の向上を主目的としています。停留所の増設は移動時間の延伸を招き、本来の目的である観光客の利便性が低下する懸念があることから、慎重な検討が必要であると考えております。 今後、知床エアポートライナーの通年運行を目指す中で、中期的に導入を検討しているウトロ地域でのライドシェア等との役割分担を整理し、主要なバス停への停車の可否や、回数券利用など地域住民の皆様が利用しやすい環境をどのように整えられるか、運行事業者と協議してまいります。
④ 市街地巡回交通（しゃりぐる）については、現状、利便性や利用状況などについて課題があると認識しております。このため、本計画（案）においては路線やダイヤの見直し、または、予約型乗合交通などの新しい移動手段への転換などについて検討することとしており、今回いただいたご意見についてはその中で、交通事業者と協議しながら、総合的に検討してまいります。
⑤ 羅臼線については、観光周遊ルートを形成する重要な路線と位置付けており、本計画（案）において「観光シーズンにおける安定的な運行の確保と利用促進を図る」こととしています。今回いただきましたご意見につきましては、需要動向や隣接自治体・運行事業者との広域連携による利便性向上の可能性を検討する際の参考とさせていただきます。
⑥ 市街地巡回交通（しゃりぐる）については、現状、利便性や利用状況などについて課題があると認識しており、本計画（案）では住民ニーズに即した予約型乗合交通（デマンド交通）への転換を検討事項として掲げております。まずは現在の路線やダイヤの見直しによる最適化を図りつつ、持続可能かつ本町の実情に即した運行形態のあり方について検討を進めてまいります。